

その他のテーマ

入試業務等の情報処理については、1機関が情報処理装置を利用して欧文文献情報基地の建設を行い、ある大学が入試追跡調査の現状を知るため、全国立大学にアンケートの回答を依頼し、入試業務処理のため、国立大学では約95%、公立大学では約70%が既に電算機を使用していること、しかもその中の約半数は自大学の電算機を使用していること、処理の実務は入試関係者が行っていること、約43%の大学で教務用データを併用していること、その他、調査用プログラムの実体と利用の希望、その交換についての意図等が明確にされた。

昭和60年以降の大学入試の改善については、ある大学は、これを契機として、入試の理念・

実施・合否決定について各学部・学科の検討結果を全学的に審議する体制の確立を意図している。

入試に関する高校側との懇談を昭和47年以降継続している大学は、本年度は特にこの懇談会を通じて高校側の新教育課程実施状況を把握し、昭和60年度以降の入試決定の検討資料とした。

各種の国家試験の合否や大学院進学などと入試成績との相関については、前掲の「入試の成績と入学後の成績」に述べたところであるが、入試の入学後の資料の一つとして、身上事項中に地方公務員試験等採用試験の合否を含めている大学もあり、今後の入試に関する追跡調査研究の成果が期待されるところである。